

平成30年度事業報告

項 目	内 容
電話・面接相談	<p>○ 電話相談 犯罪等の被害者及びその家族又は遺族（以下「犯罪被害者等」という。）からの相談を職員又は被害者支援ボランティアが専用電話（0120-43-0874）等で受理し対応した。</p> <p>○ 面接相談 面接相談を希望し又は電話相談の結果、面接相談が必要と認められる犯罪被害者等に対して、職員等がセンター面接相談室などで面接し対応した。</p> <p>○ 電話・面接相談の受理状況 受理総数 95件（相談実人数 50名） 電話72件、面接21件、文書1件、メール1件 居住地域～東部50件、中部11件、西部27件、県外 7件 主な内容～性犯罪、交通事故、詐欺等</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○ カウンセリング及び医療的措置の支援 メンタルケアを必要とする犯罪被害者等に専門家（精神科医、臨床心理士）を紹介したり、西部相談所において週1回常駐している臨床心理士によるカウンセリングを実施し、精神的負担の軽減を図った。（10件：実人数2名）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○ 法的救済支援 法律専門家による相談が必要と認められる犯罪被害者等に対して、協力弁護士を紹介した。（2件）</p>
直接的支援	<p>○ 役務の提供等 犯罪被害者等の精神的負担の軽減を目的として、その要望に応じて病院、法的機関等への付添い、送迎等の支援を行った。 直接的支援実施総数 23件（支援実人数8名） 付添い 20件 裁判所9件、検察庁5件、警察署1件、弁護士事務所4件、 その他1件 その他 3件</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○ 緊急避難場所の提供 なし</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○ 全国被害者支援ネットワーク被害者緊急支援金の支給 なし</p>
犯罪被害者等給付金申請補助	<p>○ 犯罪被害者等給付金の申請補助 なし</p>
自助グループに対する支援	<p>○ 場所提供等 犯罪被害者自助グループ「なごみの会」に対し、定例集会等の際、会場、資料、情報提供等の支援を行った。（7回）</p> <p>○ 全国被害者支援ネットワーク主催のフォーラムへの参加 東京 10月12日</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会の支援 生命保険協会鳥取県協会での講演会の支援を行った。 ○ 「いのちのパネル展」の支援 「なごみの会」が市役所、講演会場、警察施設等で開催する「いのちのパネル展」の設置準備等の支援を行った。(7回)
<p>広報・啓発活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「被害者支援を考える公開講座」を開催し、性暴力被害に関する支援について理解を深めた。 9月1日 倉吉体育文化会館(参加者約40名) ・ センター設立10周年記念事業と位置づけて「鳥取県被害者支援フォーラム」を開催し、全国被害者支援ネットワーク理事長(ご遺族)の講演を行うなどして、県民の被害者支援意識の高揚を図った。 11月27日 とりぎん文化会館小ホール(入場者約250名) ・ 「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、中・高校生等に対する命の大切さの意識高揚を図った。 10回9校で実施(高校4校、中学校5校) ○ ホームページによる広報活動の推進 専用ホームページで、支援センターの組織体制、業務の内容、活動状況、相談窓口の案内、新着情報等をタイムリーに掲示して支援センターの利用を広報した。 ○ 広報・啓発用ポスター、リーフレット等の作成、配布 ポスター、リーフレット、チラシ等を作成して、関係機関等での掲示や街頭活動、講演会、研修会等での配布を行い、支援センターの広報及び被害者支援に対する意識の高揚を図った。 ○ 10周年記念誌「10年のあゆみ」の刊行(1,200部) 鳥取県被害者支援フォーラムの参加者や会員、関係機関等に配布した。 ○ 機関紙「センターだより」の発行(2回) センターだより第19号(7月)、20号(1月)を発行し、関係機関、賛助会員等へ送付し、センターの事業活動を報告するとともに協力を呼び掛けた。 ○ 街頭広報の実施 11月20日、鳥取市・日吉津村内大型ショッピングセンターにおいて、県、警察、センター役員、ボランティアと合同で、「犯罪被害者週間」(11月25日～12月1日)に併せた意識啓発と「鳥取県被害者支援フォーラム」(11月27日)への参加を呼び掛けた。 ○ 被害者支援講演会等の実施 被害者支援に関する意識の高揚・啓発を推進するため、各関係機関等の研修等に出向き、講演等を行った。(15回)
<p>関係機関・団体等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会等への参加 「全国犯罪被害者支援ネットワーク」が開催する研修会等へ参加して、全国の民間被害者支援団体との連携を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新任事務局長会議 東京(8月22日) ・ 中・四国ブロック事務局長会議 島根(9月7日) 徳島(1月25日) ・ 中・四国ブロック研修会(上期)

	<p>島根（9月8日～9日）3名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国犯罪被害者支援フォーラム・全国秋期研修会 東京（10月12日～14日）8名参加 <p>○ 県内の関係機関との連携強化 被害者支援に係わる警察及び行政機関の会議、研修会等へ出席するとともに連携について協議を行った。</p>																
<p>被害者支援ボランティアの養成、研修</p>	<p>○ 募集活動 新聞広告の掲載（2回）やチラシ（500枚）を作成しボランティアの募集活動を行った。</p> <p>○ 第11期被害者支援ボランティアの養成講座（5回実施） 13名が受講し、6名をボランティアとして登録</p> <p>○ 継続研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センター主催研修 7回実施 ・ 関係機関開催の研修会参加 6回（延べ23名参加） ・ 兵庫県こころのケアセンター研修（11月8日～9日 2名参加） 																
<p>財政・体制強化の推進</p>	<p>○ ファンドレイジング活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国犯罪被害者支援ネットワークの「ホンデリング・プロジェクト」に参加し、不要本の売却金を寄付していただく活動を実施した。 ・ 「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加し、毎月11日にレシート投函を呼び掛けてレシート金額の1%を寄付していただく活動を実施した。 ・ 鳥取県共同募金会のつかいみちを選べる募金助成事業（1月～3月末）に参加し、募金活動を実施した。 ・ 賛助会員の拡大と寄付型自動販売機、募金箱の設置拡充に取り組んだ。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>寄付型自動販売機</td> <td>53台</td> <td>（前年度</td> <td>39台）</td> </tr> <tr> <td>募金箱</td> <td>167か所</td> <td>（前年度</td> <td>113か所）</td> </tr> <tr> <td>寄付</td> <td>団体</td> <td>154団体</td> <td>（前年度 125団体）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個人</td> <td>726名</td> <td>（前年度 378名）</td> </tr> </table>	寄付型自動販売機	53台	（前年度	39台）	募金箱	167か所	（前年度	113か所）	寄付	団体	154団体	（前年度 125団体）		個人	726名	（前年度 378名）
寄付型自動販売機	53台	（前年度	39台）														
募金箱	167か所	（前年度	113か所）														
寄付	団体	154団体	（前年度 125団体）														
	個人	726名	（前年度 378名）														
<p>組織の運営体制</p>	<p>○ 正会員数：25名 団体 18団体（前年度 18団体） 個人 7名（前年度 6名）</p> <p>○ 賛助会員数 団体 75団体（前年度 67団体） 個人 249名（前年度 151名）</p> <p>○ 職員数 常勤職員：2名（事務局） 非常勤職員：4名 ・ 事務局：1名（経理担当） ・ 西部相談所：3名（うち1名はカウンセリング担当）</p> <p>○ 支援活動員（ボランティア）登録数 43名</p>																